

第4回聖籠町公共交通検討委員会 議事要旨

日時：令和元年11月12日（火）15：00～16：50

場所：聖籠町役場3階大会議室

出席委員：藤堂委員、渡邊委員、河村委員、五十嵐委員、齋藤委員、高橋委員（代理出席）、山口委員、森田委員、新保委員、菅原委員、小川委員、近藤委員、森委員、諸橋委員（代理出席）、安齋委員

事務局：夏井副町長、生活環境課：藤田課長、高橋補佐、勝見主任

次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

- (1) 前回までの検討会でのご意見
- (2) 地域公共交通に関する補助制度について
- (3) 報告書の位置づけと今後のスケジュールについて
- (4) これまでの議論の取りまとめについて
- (5) 土曜日の運行について

議事 (1) 前回までの検討会でのご意見

○事務局から資料説明

○説明を受けての質問・意見

質問・意見なし

議事 (2) 地域公共交通に関する補助制度について

○新潟陸運支局 渡邊首席運輸企画専門官より資料説明

○説明を受けての質問・意見

委員 次第浜新発田線は国の幹線補助の対象になり得るが、それには利用者の増加が必要であるとの説明だが、利用者の増加は難しいのではないか。

委員 具体的にはどれくらい利用者が増えればいいのか。

事務局 年間24,000人が利用すれば、補助金が規定の満額もらえると試算している。

委員 補助金の要件は1日あたりの運行回数が3回以上で輸送量が15人以上である。現在運行回数は6回であるので15人÷6回で1回に2.5人以上の乗車があれば良いということになる。

事務局 現在の次第浜新発田線のバスの利用者は1回あたりの運行で2.2人であり、はま

なす号が統合されれば2.5人は超えるのではないかと見込んでいる。

会長 補助金は要件をクリアしてから申請するのか。

委員 幹線補助については、県がこの路線は残すべき路線であると認めたうえで、要件はクリアする見込みであるとして申請することは可能であるが、実績として要件を満たさなければ不交付ということもあり得る。

委員 補助を受ければ黒字になるのか。どれくらいもらえるのか。

委員 最大で赤字額の半額が補助される。

委員 次第浜新発田線は、現在は新潟交通観光の路線である。補助金をもらうもらわないは、新潟交通観光の話なのではないか。

会長 検討委員会の目的は、今後の方向性に関しこんな形はどうかという案を出すこと。その後示した方向性に進んでいくかどうかは、利害関係者の中でどのような意思決定がなされ、町と事業者との間でどう合意がなされていくかなど、今後のプロセス次第である。

副町長 補助金の話は、あくまで路線を統合した場合はこうなるという仮定の話をしているが、新潟交通観光からは、運転手不足の問題から路線の維持が今後難しくなる可能性もあると聞いている。新発田市街への路線は高校生の通学にとっても大事な路線であり、個人的な考えであるが、例えば路線維持のために委託路線にした方が良いとも考えている。そのうえではまなす号と路線統合し利便性の向上と経費の削減を図れればと思う。

議事 (3) 報告書の位置づけと今後のスケジュールについて

○事務局より資料説明

○説明を受けての質問・意見

質問・意見なし

議事 (4) これまでの議論の取りまとめについて

○事務局より資料説明

○説明を受けての質問・意見

委員 デマンド方式にした場合、現在の利用者だと費用はどのくらいになるのか。利用者数により、経費の面で分岐点があるとのことであるが、分岐点は何人くらいになるのか。

事務局 デマンド方式の費用や分岐点の具体的な算定は行っていない。現在の循環バスは、朝夕に高校生の利用が相当数ある。デマンド方式にすると毎日高校生が行きと帰りのバス予約をしなければならないなどのことを考えると定時運行のバス形態が良いのではないかと考える。

委員 町の現在の利用者状況では、なかなかデマンドに切り替えるのは難しいのかなという印象を受けた。そうすると、おのずとバス形態になるわけだが、費用面においては削

減が必要とのことであるので、委員会の中で話しあっている路線の統合や運賃の値上げもさることながら、受託者の新潟交通観光さんに委託料を下げてもらったり、場合によっては競争原理を働かせるなどして、町が目指す費用額まで削減する努力をしてもらいたい。

委員 資料中の4.運賃・減免の検討項目での表現で、「運賃の値上げ・減免の見直しも選択肢の一つになりうる。」となっている。財政コストの縮減は見直しの大きな方向のひとつと思われる。もう少し踏み込んだ「見直しの方向で検討すべき。」という表現に直してはどうか。

副町長 遠慮がちに書いている。委員会でもう少し強めにということであれば変更したい。

委員 表現を強めにすることに賛成である。値上げや減免の見直しをすることにより利用者が減ることは考えられるが、公共交通の維持にはそれなりの経費がかかることから、100円で乗られるという現状が適当なのかどうかということ、今一度、町民のみなさんに考えていただいて、公共交通を残すということであれば、多少の値上げは容認してもらわなければならないのではないかと。

会長 利用料金の値上げに関する報告書への記載についてはもう少し強めに書くということに異存はないが、赤字でどうしようもないから負担を増やすというネガティブな表現ではなく、値上げにより公費負担を軽減することにより公共交通を維持し、利用者を増やすことによって公費補助も受けられる選択肢があり、そうすると頑張っただけで利用すれば経費節減にもつながるし、利用者負担も長期的には抑えていけるというようなポジティブな書き方にしてもらうよう事務局には工夫してほしい。

副町長 前回の委員会の中で、曜日を決めて各地区でダイヤを集中し利便性を図るといふご意見があったがいかがか。

委員 急に医療機関への受診をしたい場合などもある。曜日を定められてバスを利用できない日ができる、とても不便になるのでやめてもらいたい。

副町長 利用促進策についてはこの委員会ではあまり議論はされていない。報告書には具体的なプランは記載しないが、今後は町と関係施設との間で話をしていく必要があるのではないかと考えている。

議事 (5) 土曜日の運行について

○事務局より資料説明

○説明を受けての質問・意見

委員 土曜日は利便性が悪いから利用者が少ない。土曜日であっても、乗りたい人が乗れる便があれば利用が増えるのではないかと。

事務局 土曜日については学生の利用は想定していないダイヤである。高齢者が午前中に通院や買い物に利用するのではという想定でダイヤを設定している。ダイヤを増やせば利便性は高まると思われるが、当然ながら経費が増える。

委員 ボランティア輸送を利用者が少ない土曜日などに行っていくのはどうか。

委員 土曜日は高校生の利用が少ないので、平日と同じ運行経路ではなく、高齢者の通院・買い物などの利用を考えた経路にすることによって利用促進を図っていくという考えはないか。

副町長 土曜日の運行をどうするかというのは経費の部分が大きい。全体として経費の削減を求められている中で、月曜日から土曜日までの部分で考えるか、月曜日から金曜日の平日だけの部分で考えるかということで、土曜日を含めて考えた場合は平日の部分が薄くなるのが予想される。運行のコストを考えた場合、土曜の運行はやめて、平日の運行を持続するのがいいのではないかとというのが町からの提案である。

委員 土曜日を運行しない場合はいくら削減できるのか。

事務局 実際のところは見積りを取らないと分からないが、今年度の委託料と運行本数から単純に計算した場合は資料に示したとおり 400 万円程度の削減になるのではないかと考えている。

委員 財政コスト圧縮のために土曜日の運行をやめるとした場合、パブコメにかけた場合、もともと町民のためのバスだから財政コスト度外視でやるべきという考え方の人もいる。その方に説明する意味でも、ある程度の数字的な根拠がないと理解が得られないのではないか。

副町長 土曜日の運行については、次回に継続ということでもいいのではないか。

(文責は事務局。事後修正する場合があります。)